時事新報定價

時事新報ハ一年三百六十五日一日モ休刊セズ其代價遞送廣告料ハ左ノ如シ

一枚二錢○一箇月前金五十錢○三箇月前金一圓五十錢○六箇月前金三圓○一箇年前金六圓

○時事新報社ヨリ直接ニ郵便ニテ遞送スルモノニ限リ右定價ノ外ニ一箇月十五錢ノ遞送料ヲ申受ク

時事新報廣告料前金

一行五號活字廿四字詰	一日限	二日以上六日迄	七日以上
一行ニ付	十二錢	十一錢	十錢五厘

月曜日幷に大祭祝日の翌日等他新聞紙の休刊日に限り時事新報配達の求めに應ず此場合には新報代價一箇月前金八錢にして地方に郵送する分は此外に貼用する郵便印紙の代價を申受く可し

時事新報

胸中の餘地

明治十九年の年末に際し福澤先生が慶應義塾の學生を一室に會し歸省の土産として談話したる言に曰く、

（前略）以上は事例として人の技藝に凝る趣を示したる迄のみとなれども人心の凝り固まるや技藝のみに非ず廣く日本の世事に就て之を視察するに道德に凝る者あり才智に凝る者あり政治に凝る者あり宗旨に凝る者あり敎育に凝る者あり商賣に凝る者ありて其凝り固まるの極度に至りては他の運動を許さずして自身も亦自由ならず內に在ては人生居家の辛苦不調和と爲り外に現れては交際の猜疑確執と爲り又壓制卑屈と爲り社會の不幸これより大なるはなし蓋し其凝り固まるの原因は世々の遺傳習俗に由ると雖も現在の其人に就て之を視れば何れも知見に乏しくして事に熟達せざるもの歟又は其心身の資質微弱なるが爲め僅に能く一事に堪ふるのみにして毫も餘力を遺さゞる故なりと斷言して可ならん故に今予が諸氏に向て望む所は生涯の行路都て事物に凝ることなく何事を執り何物に熱心するも常に餘力を貯へて變通流暢の資に供するの一事なり今月今日本塾に在て學問に從事するも決して此學問に凝る勿れ業成り塾を去りて家に居り又社會の事に當るも決して其事に凝る勿れ常に心身を倜儻にして事に堪ふるの資を作り其進取敢爲の樣に於ては外見或は奮發の極度と思はるゝにも拘はらず內に實力を餘して心思を百方に馳せ苟も判斷の明を失ふ勿れ即ち是れ我同學文明の大主義として忘る可らざるものなり（下略）

當時世上二三の評者ありて日本の人民は槪して熱心の情に乏しく輕躁の嫌ある所なるに却て事物に凝る勿れと云ふは如何あらんと危ぶむ者もありしが熱心の熱度餘りに高くして更に餘地を遺さゞる者は多くは事の久しきに耐へずして挫折し易き習あれば其形迹は即ち輕躁の所爲にして熱心即是輕躁の意味を成すに終るべし必竟其運動を活潑至極にしながら其心思を靜穩至極に据置き綽然の餘地を存するこそ耐久成功の秘訣なれば方便主義の說法を以て徒に熱心を奬勵せず處世の悟道を啓示したるものと我輩は之を了解せしに此邊の開悟は人生に最も易からざることと見え情火燃ゆる所頗ぶる花々しく炎片四方に散じて周圍の事々物々悉く糜爛の炎を被むり社會の不幸殆んど際涯なきものゝ如し他事は暫く擱き我輩は今の政治社會に於て最も其然るを見る所にして國會の準備と聞えたる黨派の爭は日にます〱勢焰を加へ餘波延いて人生の百事を殺了せんとするは之を黨派に凝るものと云ふて可ならん歟胸中餘地なきの熱心は我輩之を奬勵すると能はざるなり

抑も社會の要素は政治敎育道德產業等何れも權衡に輕重なきものあれば其一方に僻して他を空ふす可らざると均しく人の家に居り世に處して執る所の事端固より種々樣々なれば商業に從事する者なりとて宗敎家に交を絶つべきに非ず敎育專門の身を以て農夫と相往來するもあるべし蓋し職業は職業あり交際は交際なれば假令へ職業の點に於て其方針を異にし將た競爭の間柄なるにもせよ或時は共に合體し或時は互に分離して終始事の性質を標準となし以て離合を決するこそ至當なるべし若しも公事に於て雙方相容れざる所あればとて私交上にも隨て反目する樣のこともならば之を稱して公事に魔せられたるものと云はざるを得ず近來の黨派の有樣を見るに他黨を傷け自黨を張るの要用とあれば何事にても之を敢行すべしと奮發するものゝ如くにして彼の內搆を訐くも我黨の爲めなり年頭の禮を見合はするも他黨なるが故なりとして一に黨派に重きを置き自餘一切の人事を犧牲にして亦顧る所なき其熱心は既に極度に達したるものと云ふべし蓋し事の茲に到りたる所以のものは政治上の黨派として守る所の主義の範圍は何れの邊にまで及ぼすべきや其區域に制限を定めざるが故に自黨とあれば政治以外の事に就ても味方し敵黨とあれば政治以外にも反對するものなるべし即ち之を無主義と評するも不可なからん英國の代議員の如きは此點に於て最も善美なる習慣を成し公私の區別を極めて嚴にするとあれば議場にありては口吻泡を飛ばして論難駁擊すと雖も既にして議事終るの後は握手歡笑また他念なきものゝ如く日本人等の每度怪む所ありといふ我輩の最も欽慕する所にして事々物々皆その範圍區域を定め相亂ださゞらんとを斷る者なれども彼の心中に餘地なき者は得て此妙に達す可らず試に古今の戰爭によりて之を徵するに昔し野蠻の時代にありては凡そ我が敵となるものは其何故に敵となりたるやの次第を問はずして唯一槪に之を憎むのみなれば戰爭は常に猛惡殘酷に流れ之を屠り之を掠めて攻擊に程度なしと雖も文明進步の今日にはいつしか戰爭にも制限を置きたるものゝ如く世界同人の哲理を加味して漸く其趣を變じつゝあるの最中ならずや左れば心中に餘地を遺すの法は戰爭中にも哲理を顧み政論の競爭にも社會協同の通義を思ふ等常に大局より觀察を下だし事に當りては眞一文字に盡力勉强して一見極度の熱心を示しながら傍より之を輕蔑するの工風に油斷なきこそ肝要なるべし、明治廿三年も既に今年となりて政治世界の多事想ひ見るべし我輩は政熱の炎片を以て社會の人事を糜爛せざらしめんとを庶幾ふものなれば四年前福澤先生の語を借りて更に朝野大小の政事家に凝る勿れの一言を呈せんと欲するなり

官報

○大藏省訓令第一號

府縣（沖繩縣ヲ除ク）

當省所管內國稅徵收費科目中關費沖繩縣稅品取扱費ノ次ヘ差押物件買上代ノ目ヲ追加ス

明治二十三年一月二十二日

大藏大臣伯爵松方正義

○宮內省告示第六號

來ル二十三日皇太后陛下御誕辰ニ付當日除喪仰出サル

明治二十三年一月二十二日

宮內大臣子爵土方久元

雜報

○鹵簿の省略　今廿三日は皇太后陛下の御誕辰日に付天皇皇后兩陛下とも右祝賀のため午後二時御出門にて青山御所へ行幸啓在らせらるゝよしなるが當日は御私幸の御事にもあれば鹵簿の如きは最も省略を極め近衞騎兵の守衞は勿論警官の先驅とも見合す事にありしと從來御私幸の節といへども騎兵半小隊は必らず附き參らせしに斯く御沙汰となりしは全く御質素の御趣意に出でしものならんといふ

○北海道の鮭漁　鮭は北海道屈指の物產にして其養成法に就ては政府も保護注意する所少なからず蓋し鮭は河流清淺の泉源に就て年々其卵を產出するの性あるが故に掛官は其產卵地方を守護し魚卵孵化して次第に流を下るの際には之を護送して海邊に至り斯くて其魚兒海中に入れば追て成長して再び河流を上る頃まで何處に潛伏するや其行衞を知らざれども扨て其上るときは急流激湍をせり上げて果ては河幅二尺ばかり最早その首尾を轉ずる能はざる處までにも達するが故に海岸に河流に網を張り置けば鮭は追へども其場を去らず頭を揃へて網中に入り一網數千尾の漁獲あるを例とすと云ふ左れば鮭の漁獲場は一種戰場の觀を呈し漁主は馬上に跨りて數百名の人夫を指揮し水岸數里の地を上下して殆んど寢食を忘るゝ者さへあり人夫の手間賃は漁獲季節內凡そ二十五圓前後にして夫れ〱其勤惰に應じ十圓より百圓位までの褒賞を給與する由なれども人事の漸く開くるに隨ひ人情も次第に險しくなり其人夫中には仙臺以北の士族輩も交り居りて動もすれば不平あど唱ふる者あるが故に後來此人夫を制御するはます〱困難ならんと云ふ斯くて前季節中北海全道の鮭漁額は凡そ十七萬石と稱し從來の比例に據れば鮭魚は長さ二尺以上三尺內外に在りて其百石は平均凡そ四千貫目、魚數六千本なるが故に全漁獲十七萬石は即ち一千零二十萬本の巨額と爲る可し左れど其買揚口も亦至て手廣くして現に東京の如き昨年十二月十五日より同廿二三日に至る迄每日凡そ五千石即ち三十萬本の賣買ありたりと云ふ尤も前季節北海道の鮭漁は例年に比して多額ありしが故に目下東京に二萬五千石、函館に二萬石、根室に二萬石、仙臺に五千石ありて其有荷合計七萬石に上り斯くて其價如何と云ふに昨年末の初荷は百石即ち六千本にて凡そ千五百圓ありしに次荷は千三百圓に下り次きは本年一月に入りて千二百五十圓の相場と爲り此比例を以て押し進まば今後或は千圓と爲り或は其以內に下るやも知る可らず今北海道より輸送する鮭を假りに一千萬本と見做し一本を四十片に切るときは即ち四億片と爲る可し然るに日本の人口は三千九百萬人にして今此人數の五分の一即ち七百八十萬人が北海道の鮭を食ふ者とすれば一人に付き凡そ五十片の割合にして供給需要に超過するの恐れなきに非ずとて今後の鮭相場を下落と見做し既に其有荷を賣り拂ふたる人もあり然るに一方にては之れに反しイナ〱近來鐵道の延長するに隨ひ運輸の便利は各地方に通じて鮭類販賣の區域も廣まり特に昨年地租の減じて引き續き米價の高直なるは大に農家の購買力を增し其鮭類に對する食慾も亦一層加はる可ければ更に其直段を回復して彼の初荷相場と同樣あるに至るべしと云々と見込み居るものもあり今後此鮭相場が兩端何れに傾く可きや是れぞ今日イサバ市場の一奇觀あらんと云へり

○愛國俱樂部　愛國公黨
第一着手と迄世人の評す
は世評の如く愛國公黨の
其紀念の爲めに愛國俱樂
者間に起り去る十六日姬
部設立の事を決し直に下
同俱樂部の創立事務所は
式は追て櫻花爛熳の候を
樹立の上は同黨の地方分
記す兵庫縣同志會員の設
違ひの爲め新に山陽大同
雙方共に愛國公黨に加入
散すべしとの說をなすも
集會を催して何れとも決
に決すべしとなり

一本俱樂部は兵庫縣愛國俱樂
一本俱樂部は自由主義愛
　會員各自の親密を計
一本俱樂部に加盟せん
　以て幹事の承諾を經
一本俱樂部に左の役員
一常議員十名　二
名一　四　書記一名
一常議員は大會に於て
　於て書記は幹事に於て
一本俱樂部は每年二回
一本俱樂部の費用は會
　以て支辨す

○日濠間通商貿易擴張の
なるコリンシ商會より同州
商務大臣の許へ見込書を
京商工會に諮問して其意
て我國へ輸入すべき見込
酒、菓物、オリーブ油、
安全マッチ、砂糖、骨董品
賣汽船航海荷爲替等の事
て將來の貿易を希望せる
入には餘り望みなきも輸
去れど大倉組にて既に留
たれば其歸朝の上は多少
と實況視察を要すべき旨

○朝鮮公使の送別會　朝
よりの命に依り近々歸國
添進一郎氏を始め亞細亞
り次第盛なる送別の莚を

○伯子男爵聯合會　兼て
去る二十日同聯合會の正
原前光伯は議長に、大給
を以て當選し兩氏とも之
長も已に定まりたれば是
て引續き聯合會を開き伯
を議定する筈なるが同
條之を議了せんには多少
案は三爵より撰出せる調
盡したる末始めて此草案
にても其大體に就ては別
く大抵は原案の如くに決
にて結了の運びに至るべ

○小牧奈良縣知事　去る
小牧昌業氏の當奈良に着
る縣官郡吏有志者を始め
は一般に國旗又は球燈を

（英量）封度　凡我百二十目九分
（英尺）呎　凡我一尺〇五
（佛量）基　凡我二百六十
噸　凡我二百七十貫九百五十目
碼　凡我三尺〇一分七厘
哩　凡我十四町四十五間一尺
メートル　凡我三尺

○新橋橫濱間發車時刻　新橋發午前六時十分（急行）、六時四十分、八時卅五分（急行）、九時四十五分（急行）、十時五十分、午後零時五分、一時廿五分、二時三〇分、四時、四時四十五分（急行）、六時十五分、六時五十分、八時卅分、九時五十五分、十一時十五分（急行）●橫濱發（新橋に向け）午前六時三十分、七時二十分、八時三十分、九時十五分（急行）、十時二十分、十一時三十分、午後零時五十分、二時、三時卅五分、四時二十五分（急行）、五時［illegible］分、八時五十五分、十一時二十五分、午後三時、五時十分、七時四十五分

○新橋神戶間發車時刻●新橋發午前六時十分（京都止り）、九時四十五分（名古屋止り）、午後二時三十分（靜岡止り）、四時四十五分（神戶まで）●靜岡發（下り）午前七時十五分（神戶迄）、午後零時十九分（京都止り）、四時十五分（名古屋止り）、十時五十九分（神戶迄）○（上り）午前十時三十分、午後零時四十五分、五時［illegible］

○上州鐵道發車時刻　上野高崎前［illegible］一時四十五分、午後二時四十五分、［illegible］十分、九時十五分、午後十二時十五［illegible］午前六時、十一時［illegible］

○仙臺鐵道　上野仙臺鹽釜間　上［illegible］